

6

戦災からの復興

昭和20年(1945年)8月15日、ポツダム宣言の受諾により、太平洋戦争が終結しました。

空襲による家屋の焼失、物価高騰、食糧不足など、市民生活は困窮を極めました。

しかし、そのような苦しい中、人々は必死でバラック小屋を建て生活の再建をし、街の復興に向けて立ち上がりました。



昭和天皇がご視察 昭和天皇が千葉市を訪問され、亥鼻山から戦災復興状況を視察されました。奏上者は渡辺良雄市長代理(助役)。(昭和21年〔1946年〕6月7日)

復興に向けて



本町通り 亥鼻山から見た市中心街。中央が本町通り及び大和橋。(昭和21年〔1946年〕8月)



吾妻町付近(現在の中央区中央) 千葉銀行本店屋上から見た亥鼻山・県庁方面。(昭和21年〔1946年〕8月)



本千葉町方面(現在の京成千葉中央駅付近) 県教育会館屋上から見た本千葉方面。煙突は旧参松。(昭和21年〔1946年〕8月)



栄町通り 千葉銀行本店屋上から見た栄町通り。通りの正面は国鉄千葉駅。(昭和21年〔1946年〕8月)

戦後の市民生活



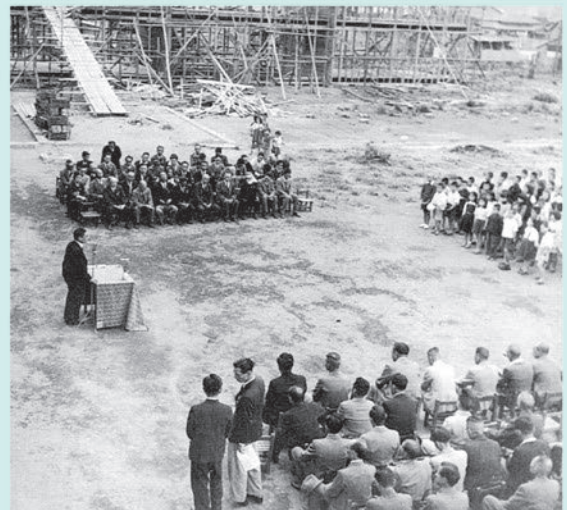
千葉銀座通りのヤミ市 昭和21年(1946年)秋頃のヤミ市の様子。正面が千葉銀行本店です。



国鉄千葉駅前の買い出し部隊 主な生活物資は配給制でしたが、ヤミ市はますます増加していきました。



勤労奉仕 昭和22年(1947年)頃、浜野町付近。近隣の人々が協力しあい、道路工事を行いました。



本町小の校舎上棟式 昭和23年(1948年)

戦後復興事業

終戦後、政府の「戦災復興計画基本方針」に基づき、千葉市は都市計画委員会を中心に、戦災復興院、県などと協議を重ねて復興計画を立案、昭和21年(1946年)6月27日に117万坪(386.8ヘクタール)の事業認可を受けました。この計画では、市の人口規模を15~20万人と想定したほか、千葉市を首都の衛星都市、学園都市、臨海水辺都市、県の政治・経済・文化の中心都市と位置付けました。

この計画により、国鉄千葉駅、京成千葉駅の移転を中心として道路・公園などの整備が行われ、事業は昭和55年(1980年)に完了しました。

事業計画図

(「千葉戦災復興誌」より)

施行前



施行後



① 国鉄千葉駅



国鉄千葉駅 昭和2年(1927年)に改築された旧千葉駅。(現在の市民会館付近)

② 千葉駅前大通り



昭和20年代頃

③ 中央公園付近



昭和30年代の旧京成千葉駅跡

④ 葭川公園付近



昭和20年代



移転工事中の国鉄千葉駅 昭和38年(1963年)4月28日に開業しました。



JR千葉駅(令和3年(2021年)9月)



昭和40年代



令和6年(2024年)5月



昭和40年代



令和6年(2024年)5月



昭和30年代



令和4年(2022年)5月